(4) 建築設計業務 「その他Ver」 ① [監督員用]	業務名:	(1/4)
------------------------------	------	-------

	i	平価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目	
			業務着手段階 における業務 特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0⇒「0.4」 n=1⇒「0.6」、n=2⇒「0.8」 n=3⇒「1.0」	8	□ ・当該業務の仕様や発注者からの指示を満たす提案がなされた。 □ 法・技術に関する提案がなされた。 □ 分野間(意匠、構造、設備)の整合がとられており、食い違い発ど無かった。	り手
			業務遂行段階における提案	40	評価細目 f_{xy} 为数=0 \Rightarrow $\lceil 0, 6 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rfloor$	24	□ ・業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。 ・関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レルに基づく提案がなされた。	ノベ
		提案力 改善力 〔加点評価〕	業務遂行上 必要となる 課題の提案	20	チェック数 0 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 "=1⇒「0.8」、"=2⇒「1.0」	12	□ ・当該業務で不足する課題が抽出された。 □ ・検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された	: -0
			業務内容等改善の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「1.0」	12	□ ・業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。 □ ・業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。	
			小計	100	チェック数 0	56		
プロセス評価	専門技術力		目的と内容の 理解 〔加点評価〕	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数 0	4	□ ・業務計画書に必要事項が記載されていた。 □ ・当該業務の目的、内容が理解されていた。 □ ・業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。 □ ・特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が	
			必要情報の 把握 〔加点評価〕	20	評価細目 f_{xy} /数=0 \Rightarrow $\lceil 0, 2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rfloor$	4	□ 解されていた。 □ ・業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 □ ・業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 □ ・業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされいた。 □ ・業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。	
		業務執行技術力	検討項目 検討手法 [加点評価]	20	チェック数 0 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数 0	4	□・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ 採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □ ・業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項間の整合も図られていた。 □ ・提案された検討手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進	()
			打ち合わせ 資料の内容 〔減点評価〕	20	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 n=1⇒「0.8」、n=2⇒「0.6」 チェック数 0	20	□ 術を活用するなど、難易度の高いものであった。 □ ・打合せ資料に、業務の各段階で必要とされる内容が盛り込まれいなかった。 □ ・打合せ資料に大きなミスがあった。	にて
			十分な技術力 〔加点評価〕	20	評価細目 f_{xy} 7数 $=0$ \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $y=1$ \Rightarrow $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $y=2$ \Rightarrow $\lceil 0.6 \rfloor$ $y=3$ \Rightarrow $\lceil 0.8 \rfloor$ $y=4$ \Rightarrow $\lceil 1.0 \rfloor$	4	・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理されていた。 ・特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分技術力を有していた。 ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項につい十分満足できる解決が図られていた。 ・新たな、あるいは高度な設計等の手法・技術に十分対応できる	なって
					チェック数 0		力を有していた。	
			小 計	100	1	36		

	(1) 是来做的未切 「 (2) 個(01)					X:337-1 ·	
					得 点 率		
	Ī	评価項目	評価の視点	配点	優標準劣		評 価 細 目
					1.0 0.8 0.6 0.4 0.2		
					評価細目チェック数=0⇒「0.2」		・設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識 を有していた。
			施工に関する	40	$n = 1 \Rightarrow [0.4], n = 2 \Rightarrow [0.6]$ $n = 3 \Rightarrow [0.8], n = 4 \Rightarrow [1.0]$	8	□ ・施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。
		一般的な知識		2.		・施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有してV た。	
					チェック数 0		□ ・施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
	佐工味。の町春					□ ・当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。	
		施工時への配慮〔設計時評価〕	施工条件の	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 "=1⇒「0.4」、"=2⇒「0.6」 "=3⇒「0.8」、"=4⇒「1.0」	6	□ ・当該地域の環境特性を把握していた。
		(設計業務を対 象に評定す	把握	30	0 / 0.001		□ ・担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。
	専	る。)			チェック数 0		・契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報 を把握した。
	9門技						□ ・必要事項を記載した施工計画が提案された。
	術		施工計画		評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow [0.2]$ $y = 1 \Rightarrow [0.4]$ 、 $y = 2 \Rightarrow [0.6]$		□ ・施工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設備計画が提案された。
	力		(施工方法、 仮設備計画)	30	$n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil, n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$	6	・工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮設備 計画が提案された。
					チェック数 0		・当該工事箇所における施工上の留意事項が、重要度別かつ施工民 階毎に適切に整理する提案がなされた。
			小 計	100	①	20	
		コスト把握能力	コスト	100	評価細目 f_{xy} 7数= $0 \rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$		□ ・工事費に関するコスト把握能力を有していた。
							□ ・現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。
	(設計業務を対象に評定する。)	(設計業務を対象に対象に対象と				20	□ ・コスト縮減に係わる提案があった。
プロ・					チェック数 0		・ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを急 頭においたコスト縮減に係わる提案があった。
セス評			小 計	100	(1)	20	現にAJV に一ハド相図にかわり正木がのフに。
価							・契約締結後7日以内に業務工程表が提出されないなど、速やかに
			実施手順	30	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 "=1⇒「0.8」、"=2⇒「0.6」	30	* 業務者手がなされなかった。 ・業務実施方針及び業務工程表には、設計図書に示された事項が通
			工程計画			30	切に反映されていなかった。
					チェック数 0		・契約図書に基づき、管理技術者届及び業務計画書が提出されな
		工程管理能力	実施体制	刮 10	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 "=1⇒「0.8」、"=2⇒「0.6」		かった。
		〔減点評価〕			"-1-7·0. 8]、"-2-7·0. 8]	10	・業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業 務が履行されなかった。
					チェック数 0		
	Andra		打人上中央の		評価細目チェック数=0⇒「1.0」		□ ・打合せ記録簿が提出されなかった。
	管理共		打合せ内容の 理解、記録	10	$n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor, n = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$	10	・打合せ記録簿の記載内容が打合せ結果を適切に反映してなかった。
	技術				チェック数 0		
	力				評価細目チェック数=0⇒「1.0」		・受注者内の意志疎通が不十分であり、指示や打合せ事項が資料等に反映されなかった。
			内部関係者へ の情報伝達	10	第千回州 日 7 年 9 7 級 -0 → 1 1 . 0] $n = 1$ ⇒ $\lceil 0.8 \rceil$ 、 $n = 2$ ⇒ $\lceil 0.6 \rceil$	10	・受注者内の意志疎通が不十分であり、同様な指示を何度も実施し た。
			*/IH W IA 足		チェック数 0		
		工程管理能力			37 /π' /m 口 4		・工程に遅れが目立ち、履行期限内に納品されない恐れがあり、線 り返し指示を行った。(発注者側に遅延要因がある場合を除く)
		[減点評価]	工程管理	40	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 "=1⇒「0.8」、"=2⇒「0.6」	40	・工程に遅れが目立ち、関連する他の業務・事業等に影響を及ぼし
					チェック数 0	□ た。(発注者側に遅延要因がある場合を除く)	
			小 計	100	(I)	100	
			. 1 н	. 30		. 50	

(4) 建築設計業務 「その他Ver」 ① 〔監督員用〕 業務名: (3/4)点 率 評価項目 評価の視点 配点 優 標準 得点 評価細目 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 □ ・業務計画書等に、照査体制が記載されていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 □ ・業務計画書等に照査担当者が配置されていた。 ミス防止の実 $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ 100 施 ・チェックリスト等の品質管理の記録により、照査が実施されたこ 品質管理能力 □ とを確認できた。 ・品質管理のためのシステム (ex. IS09001) が構築されている部署 0 □ で業務を行った チェック数 100 (1) 20 小 計 ・業務遂行中に生じた、当初工程計画からの変更要請に迅速に対応 ロした。 評価細目チェック数=0⇒「0.6」 □ ・その結果生じた検討内容が特に優れていた。 当初計画の =1⇒ 「0.8」、 "=2⇒ 「1.0」 40 24 変更 理 チェック数 0 技 術 発注者からの指示に基づき、関連事業者間の調整のための資料が □ 円滑に作成された。 能 カ 迅速性 評価細目チェック数=0⇒[0.6] ・作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。 関連事業者間 $n = 1 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor, \quad n = 2 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ 弾力性 30 18 の調整 調整能力 チェック数 [加点評価] □ ・関係法規等を十分に理解していた。 評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $y = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $y = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $y = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $y = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ 関係法規の理 □ ・発注者からの指示により、関係法規の検討を行った。 解、特定行政 30 6 庁等との調整 □ ・特定行政庁との調整を積極的かつ円滑に行った。 チェック数 0 □ ・特定行政庁との調整を十分に行った。 100 48 小 計 (1) □ ・図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 理解しやすい ・文章表現が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 説明 30 6 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するように努力されていた。 説明力 評 (資料) 侕 協調性 チェック数 0 □ ・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。 ・質問に対し的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回 プレセ ンテーション 力 □ 答期限が提示された。 ショ 評価細目チェック数=0⇒「0.4」 [加点評価] 理解しやすい $n = 1 \Rightarrow [0.6], \quad n = 2 \Rightarrow [0.8]$ $n = 3 \Rightarrow [1.0],$ □ ・一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 説明 30 12 カ プレゼンテーション ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に □ 理解できた。 (対応) チェック数 0 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 評価細目 f_{xy} /数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $y = 1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $y = 2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $y = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $y = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$ ・説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明 口がなされた。 説明を 20 補う努力 ・相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されてい □ た. チェック数 0 □ ・説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。 説明力 協調性 ケ プレゼンテーション力 ・密に業務の准排状況等が発注者に報告されていた。 П 評価細目チェック数=0⇒「0.4」 〃=1⇒[0.6」、〃=2⇒「0.8」 ・業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされ [加点評価] ロた。 3 円滑な業務 *n* =3⇒ 「1.0」、 20 8 遂行への努力 □ ・発注者の指示に対して、迅速な対応がなされた。 力 0 チェック数 小 計 100 (1) 30 ・管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は □無かった。 評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ・打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかっ 責任感 $y = 1 \Rightarrow [0.4], \quad y = 2 \Rightarrow [0.6]$ 責任感 形 $n = 3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$, $n = 4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$ 100 20 ・業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が 組 積極性 積極性 □ 再確認されていた。 姿 勢 □ ・業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせや確認が迅速になされた。 倫理観 チェック数 0

① 20

小 計

100

(4)建築設計業務「	その他Ver」	①〔監督員用〕	業務名:	(4/4)

	in in	平価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
		図面表記	目的の 達成度	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0」 チェック数 0	8	□ ・契約図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ ・業務成果は、図面等の不整合がなく、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ 高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。
結果評価	成果品の品質	資料等の整理	的確な とりまとめ	30	評価細目 f_{xy} 7数=0⇒ $[0, 2]$ n=1⇒ $[0, 4]$ 、 $n=2$ ⇒ $[0, 6]n=3$ ⇒ $[0, 8]$ 、 $n=4$ ⇒ $[1, 0]チェック数 0$	6	一 務に対し必要な業務版来が得られた。 □ ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 □ ・ 簡潔で理解しやすい文章表現となっている。 □ ・ 記載方法や成果のとりまとめに創意工夫がみられる。 □ ・ 設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
		図面の不足	ミスの有無	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 n=1⇒「0.4」、n=2⇒「0.6」 n=3⇒「0.8」、n=4⇒「1.0] チェック数 0	6	・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスはなかった。 ・誤字、脱字、表記、計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった。 ・修正が必要なミスは、なかった。 ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小 計	100	1	20	

(4) 建築設計業務 「その他Ver」 ② [主任監督員用] 業務名: (1/2)	(4)	建築設計業務	「その他Ver」	②〔主任監督員用〕	業務名:		(1/1)
---	-----	--------	----------	-----------	------	--	-------

		評価項目	評価の視点	配点	機 点 率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
プロ	専門技術力	業務執行技術力	業務執行 技術力	100	評価細目f ₁₇ /7数=1以下⇒ 「0.2」、n=2⇒「0.4」、 n=3⇒「0.6」、n=4⇒ 「0.8」、n=5以上⇒ 「1.0」 チェック数 0	20	・当該業務に必要な情報の把握について、評価できるものであった。 ・当該業務に対する検討項目及び検討手法について、評価できるものであった。 ・当該業務の打合せ資料の内容について、評価できるものであった。 ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、評価できるものであった。 ・当該業務の打合せ資料の内容について、評価できるものであった。 ・当該業務の打合せ資料の内容について、評価できるものであった。 ・当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、評価できるものであった。
セス			小 計	100	3	20	
評価	取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性 倫理観	100	評価細目fェック数=1以下⇒ 「0.2」, n=2⇒ 「0.4」 n=3⇒ 「0.6」, n=4⇒ 「0.8」 n=5⇒ 「1.0」	20	□ ・企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □ ・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対して評価できるものであった。 □ 制の拡充を図る等により、業務を完成させた。 □ ・当該業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対して評価できるものであった。 □ ・業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として体制の拡充を図る等により、業務を完成させた。
			小 計	100	3	20	

(4) 建築設計業務 「その他Ver」 ③ 〔検査員用〕 業務名: (1/1)

	i i	評価項目	評価の視点	配点	標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評 価 細 目
			検討項目 検討手法	50	評価細目 $f_{\pm y}$ 7数= $0 \Rightarrow \lceil 0, 2 \rfloor$ $n = 1 \Rightarrow \lceil 0, 4 \rfloor$ 、 $n = 2 \Rightarrow \lceil 0, 6 \rfloor$ $n = 3 \Rightarrow \lceil 0, 8 \rfloor$ 、 $n = 4 \Rightarrow \lceil 1, 0 \rfloor$	10	□ ・検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □ ・採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 ・ 業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。
	専				チェック数 0		・提案された業務手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技 術を活用するなど、難易度の高いものであった。
プロセ	門技術力	業務執行技術力	十分な技術力	50	評価細目 $f_{xy}/$ 数= $0 \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$	10	□ ・業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 □ ・特配仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 □ ・業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。
ス 評					チェック数 0		・新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。
価			小 計	100	5	20	
	コミュニケー	ミュー ニー 説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明力協調性	100	評価細目 f_{xy} p 数= $0 \rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n=4 \rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	20	□ ・質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。 □ ・曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。 □ ・説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度をに応じ、説明のポイント・速き等が工夫されていた。
	ショ		プレゼンテーション力		チェック数 0		・説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。
	ン 力		小 計	100	5	20	
			目的の達成度 40	40	評価細目 $f_{\pm y}/g_{\pm 0} \Rightarrow \lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rceil$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rceil$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rceil$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rceil$	8	□ ・設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。□ ・業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。□ ・業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。
					チェック数 0		・高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。
結果評価		成果品の品	せ 的確な とりまとめ	30	評価細目 f_{xy} 7数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1 \Rightarrow \lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2 \Rightarrow \lceil 0.6 \rfloor$ $n=3 \Rightarrow \lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4 \Rightarrow \lceil 1.0 \rfloor$	6	□ ・設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 □ ・理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □ ・簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。
Щ		質			チェック数 0		・設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価細目 f_{xy} η 数=0 \Rightarrow $\lceil 0.2 \rfloor$ $n=1$ \Rightarrow $\lceil 0.4 \rfloor$ 、 $n=2$ \Rightarrow $\lceil 0.6 \rfloor$ $n=3$ \Rightarrow $\lceil 0.8 \rfloor$ 、 $n=4$ \Rightarrow $\lceil 1.0 \rfloor$	6	・成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 ・誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽徴なものであった若しくはミスがなかった。 ・修正が必要なミスは無かった。
					チェック数 0		□ ・ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小 計	100	(5)	20	